

有価証券・固定資産・前払前受・未収未払

(1) 有価証券

① 有価証券とは？

「有価証券」とは、株式（株券）、社債、国債などを言います。株式投資の目的は、配当金をもらうことや株価が値上がりしたときの売却益を得ることです。この値上がり益を目的に保有している株式を「**売買目的有価証券**」（資産）と言います。

② 有価証券の仕訳

（例題1）A社株式を1株5,000円で10株購入し、証券会社に手数料2,000円を合わせて現金で支払った。

仕訳 （借） 売買目的有価証券 52,000 （貸） 現金 52,000

（解説）株式自体の購入価額5,000円×10株=50,000円を「**購入代価**」こうにゅうたいかと言
い、証券会社への手数を「**附随費用**」と言います。有価証券の金額
はこの購入代価に附随費用をプラスした「**取得原価**」で表されます。

（例題2）上記A社より配当金領収証500円が送付されてきました。

仕訳 （借） 現金 500 （貸） 受取配当金 500

（解説）会社は利益が出ると株主に対して配当金を支払います。この配当金は
受取配当金（収益）勘定で処理します。配当金領収証については、無
料講座「現金及び預金」編を再度確認してください。

（例題3）上記A社株式を1株6,000円で全株売却し、小切手で受け取った。

仕訳 （借） 現金 60,000 （貸） 売買目的有価証券 52,000
（貸） 有価証券売却益 8,000

（解説）株価は毎日変動しています。取得時の株価よりも高く売却できれば利

益が出ますから、この場合には「有価証券売却益」(収益)勘定を使用します。逆に、取得時の株価よりも安く売却せざるをえない場合には、「有価証券売却損」(費用)が生じてしまいます。

③ 社債・国債(地方債)

「社債」とは、大企業が銀行からお金を借りるのではなく、他社や私達一般人から広くお金を借りたいときに発行する証券のことです。また、「国債(地方債)」は国や市町村などが同じく広くお金を集めたいときに発行する証券を言います。

(例題1) 売買目的でD社発行の社債(額面10,000円)を単価100円につき97円で購入し現金を支払った。

仕訳 (借) 売買目的有価証券 9,700 (貸) 現金 9,700

(解説) 社債には「額面」というものがあります。額面とは、将来返済してくれる金額のことです。本問では額面10,000円なので、社債の満期日に10,000円返ってきます。そして、社債は発行するときに安く購入できるようにしておきます。これが単価100円につき97円というくだりです。つまり、10,000円を単価100円で割ると100口(社債は口数でカウントします)本問では購入することになります。そして、この100口を97円で購入することができるということは、将来10,000円返ってくる額面10,000円の社債を9,700円で購入できるのですから、購入者はお金を出すという仕組みです。

(例題2) 上記D社社債の利払日に、利札500円を銀行に持っていき、当座預金に預け入れた。

仕訳 (借) 当座預金 500 (貸) 有価証券利息 500

(解説) 社債には、コンサートチケットのようにミシン目で利札というものが付いていて利払日(利息が確定する日)と利息額が書いてあります。利払日が来たら、そのミシン目から切り取って銀行に行くと現金化が

出来ます。科目は、社債にくっついているので「有価証券利息」(収益)と覚えると分かりやすいと思います。

(例題3) 上記D社社債を額面100円につき99円で売却し、代金は小切手で受取りただちに当座預金に預け入れた。

仕訳 (借) 当座預金 9,900 (貸) 売買目的有価証券 9,700
(貸) 有価証券売却益 200

(解説) 株式と同じく利益が出たら有価証券売却益、損失がでたら有価証券売却損勘定でそれぞれ処理をします。

(2) 固定資産

① 固定資産とは？

例えば、レストランであれば下記のような固定資産があります。

お店の建物や材料を置いておく倉庫など → 「建物」(資産) 勘定

お店の土地 → 「土地」(資産)

お店のテーブルや管理用パソコンなど → 「備品」(資産)

配達用の車 → 「車両運搬具」資産

(例題1) 倉庫を10,000円で取得し、仲介手数料2,000円とともに現金で支払った。

仕訳 (借) 建物 12,000 (貸) 現金 12,000

(解説) 附随費用は取得原価に含めるのは、有価証券と同じです。

(例題2) 上記倉庫を7,000円で売却し、代金は小切手で受け取った。

仕訳 (借) 現金 7,000 (貸) 建物 12,000
(借) 固定資産売却損 5,000

(解説) 上記とは逆に利益が出た時は、固定資産売却益(収益)で処理します。

(3) 前払金と前受金

① 手付金、内金、予約金など

無料講座「商品売買」編で学習した手付金の再復習です。

② 前受金・前払金の仕訳

(例題1) A商店は商品代金の手付金として代金10,000円の30%をB商店に現金で支払った。この場合のA・B商店の仕訳は？

仕訳 A商店 (借) 前払金 3,000 (貸) 現金 3,000

B商店 (借) 現金 3,000 (貸) 前受金 3,000

(例題2) A商店はB商店より商品を受け取り、残額は掛とした。

仕訳 A商店 (借) 仕入 10,000 (貸) 前払金 3,000

(貸) 買掛金 7,000

B商店 (借) 前受金 3,000 (貸) 売上 10,000

(借) 売掛金 7,000

(4) 未収金と未払金

① 未収金・未払金とは？

ここで注意しなければならないポイントは同じ未収金でも種類が2つあるということです。

【ある洋服店があったとして、】

例1) 洋服500円を掛で売り上げた。←お金500円は未収です。

仕訳 (借) 売掛金 500 (貸) 売上 500

例2) 配達用車両を500円で売り上げたが代金は来月入金予定。←未収

仕訳 (借) 未収入金 500 (貸) 車両運搬具 500

つまり、本業である洋服の販売代金の未収金は「**売掛金**」勘定を使用し、その他の固定資産や有価証券の売却代金の未収金は「**未収金**」勘定を使用します。

② 未収金・未払金の仕訳

(例題1) C商店はD商店から土地を10,000円で購入したが、代金は来月末に支払うこととした。CとDの仕訳は？

仕訳 (C商店) (借) 土地 10,000 (貸) 未払金 10,000

(D商店) (借) 未収金 10,000 (貸) 土地 10,000

(例題2) 上記の代金10,000円を小切手で支払った。CとDの仕訳は？

仕訳 (C商店) (借) 未払金 10,000 (貸) 当座預金 10,000

(D商店) (借) 現金 10,000 (貸) 未収金 10,000